

道徳科の指導と評価を改善していく校内研修

胤森 裕暢*・広島市立安佐南中学校道徳教育推進委員会

要 約

本稿は、小学校と中学校において、従来実践してきた領域「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」（通称 道徳科）として改善・充実するよう求められる中、学校現場で、どのように指導と評価を改善していけばよいか、特にいかに校内研修を工夫して研究推進していけばよいかについて、道徳科の評価と指導を追求する校内研修を推進している安佐南中学校の実践の分析を通して具体的に明らかにしている。

同校の校内研修は、道徳科授業の評価のあり方を協働的に考え出すことを通して、授業の改善、年間の授業計画である年間指導計画の構築、さらに問題解決的な授業構成まで意識した授業改善へ議論を進めることができている。

こうした研究開発をさらに進めていくには、転勤してきた同僚も含め、自校の生徒たちがいかに道徳性を育成すればよいかについて深い共通認識を培うことのできる校内研修の充実が課題となる。

1. はじめに—道徳科の指導と評価を改善していく方途とは—

ダイナミックに変容し続ける社会の中で生徒が、自立した市民として生きてゆくために、学校における道徳性の育成ないしは価値観の形成に関わる道徳教育の充実が重要である。

従来、小学校と中学校における道徳教育の要として機能するよう求められてきた「道徳の時間」は、いじめの問題への対応の充実等もあり、「適切な教材を用いて確実に指導を行い、指導の結果を明らかにしてその質的な向上を図ることができるよう」、教育課程に「特別の教科道徳」（以下、道徳科）として位置付け直された¹⁾。すなわち実践を丁寧の評価し、道徳授業を改善するよう求めているのである。

道徳科では、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて、個々の生徒の成長を促すとともに、それによって自らの

指導を評価し、改善に努めることが大切」とされる²⁾。もとより学習評価は、「生徒にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組む」ためのものである³⁾。中学校等における道徳教育の充実を図るために、道徳授業での学習評価をふまえて、教師が生徒の成長や意欲の向上につながるよう、自身の指導計画とそれに基づく実践を改善してゆくことが一層求められる。

では教師は、いかに道徳授業の評価を指導計画の改善、授業実践の充実を活かせばよいのだろうか。これに対して西野（2018）は、「評価の考え方を踏まえて授業を構想することで、評価につながる学習活動が充実する。学習活動の構想に評価の視点を生かし、『考え、議論する道徳』の授業を実現する取組が、結果として評価の負担感の軽減につながりうる」とする⁴⁾。こうした、道徳授業における評価を指導と一体的に捉える考え方によれば、道徳科の実践には、これまで以上に教師同士の連携・協力が重要に

* 広島経済大学教養教育部教授

なると考えられる。道徳科の指導と評価について新たな知見を共有したり、多様な生徒たちの学習状況を共有したりすることが、教師による深い生徒理解、さらに生徒の成長を見守り、認め励ます評価を生み出す。このことが生徒に自らの成長を実感させ、道徳授業での学習意欲を高めさせることにもつながるであろう。また教師が連携・協力して評価に取り組むことで、協働的な授業改善が進み、一人の教師では容易に作れないような効果的な道徳科の指導計画を生み出すこともできるのではないかと。さらには、効果的な指導計画を立てて協働的に取り組む中で、よりよい道徳科授業の改善も進みやすくなるのではないかと。例えば授業構成を工夫する議論も必要になるのではないかと。こうした教師たちによる協働が作りやすい場として、校内研修が考えられる。例えば、研究授業と協議会を組み込んだ校内研修は、教師たちが授業づくりを主体的・連続的・発展的に行える場として、これまで学校現場で培われてきたものである。

では、こうした特徴を持つ校内研修を活かしながら、道徳科授業の評価の工夫、また指導計画の見直し、さらに授業構成の議論まで組み込んだ授業改善について、いかに具体的に進めていけばよいのだろうか。また、そのような校内研修にはどのような特徴と課題があるのだろうか。

こうした問題について本稿では、道徳科の授業実践に係る先行的な研究を進めてきた中学校と、近接する大学の教師とが連携し実施してきた校内研修の事例を吟味することを通して、明らかにしてゆく。

2. 道徳科の評価を工夫するための校内研修

2.1 校内研修の基盤づくり

道徳科に係る実践的な研究を進めている広島市立安佐南中学校は、かねてより近接する広島

経済大学から、広島市教育委員会の事業「大学生による学校支援活動」による学生ボランティアを受け入れたり、大学教師（筆者）を校内研修講師として招いて、「安佐南中スタイル」とよぶ授業過程をつくったりしてきた。

平成30年度には、広島市教育委員会から「道徳教育研究校」指定を受け、道徳科の実施に向けた実践的研究、特に評価の具体的な方法について研究した。

これに先立つ平成29年度末には、道徳教育推進教師及び研究担当を含む道徳教育推進委員会（以下、推進委員会）を中心に、文献調査や外部講師招聘、先進的な実践に学ぶため京都市の中学校を訪問するなどして、これからの自校における道徳科試行のあり方をまとめた小冊子「道徳科の試行について」をつくっていた。この中には、「目的、年間指導計画、評価の基本的考え方、道徳科の目標、評価の観点（評価規準）、授業者について、課題、研究テーマ、研究組織、評価の方法、平成30年度における試行の具体的な流れ、学年研修の内容、検証方法、参考資料」が順に記されており、先行実践する道徳科について仮説が立てられていた。（図1はその一部であり、「評価の方法」について整理してある。）

自校で先行的にやってみようとしている道徳科の目標・計画・評価のあり方が簡潔に示され、自校生徒の道徳性に係る課題が抽出され、研究テーマ「成長を実感できる道徳科の評価について～ワークシートの工夫や面談等を通してから～」を設定しており、これに道徳教育推進教師を含む組織のあり方や具体的な流れ、評価の具体的方途（ワークシート例やその活用方法）や、その検証方法などが仮定されていた。

こうして前年度中に基礎的研究を始めていたことで、当該年度の実践的研究が、異動が異動ながらも、円滑に進められるようになっていたと考えられる。

10 評価の方法

(1) ワークシートの最後に、評価の観点に基づく記述をする箇所を次のように作る。

今日の学習について、次のA～Cから一つ選んで、選んだアルファベットに○をしよう。Aを選んだ場合は、「変わった」か「変わらなかった」のどちらかにも○をしよう。そして下の枠に、「なぜなら(それは)…」の続きを書こう。

A：自分の意見は(変わった 変わらなかった)。なぜなら…

B：心の響くものがあった。それは…

C：これからの生活に生かしていこうと思うものがあった。それは…

- (2) 毎時間のワークシートを道徳ファイルに綴じる。
- (3) 綴じられたワークシートの(1)の記述や道徳科の授業における生徒の言動や姿勢、面談での本人の思いなどをもとに評価を行う。その際、次のような視点で評価を行う。
- ① 自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。
 - ② 登場人物を自分に置き換えて、具体的なイメージで理解しようとしている。
 - ③ 自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
 - ④ 他者と議論する中で、道徳的価値の理解を深めようとしている。
 - ⑤ 道徳的価値の実現の難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。
 - ⑥ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において、広い視野から考えようとしている。
 - ⑦ 判断の根拠や心情をいろいろな面から考えようとしている。
 - ⑧ 道徳的価値の大切さを深く感じ取ろうとしている。

図1 安佐南中学校「道徳科の試行について」(一部)

2.2 評価の工夫を共有する校内研修—事例：
夏の道徳教育校内研修—

平成30年度に入り、広島市教育委員会の研究指定を受けると、推進委員会主導のもと、学年会と各教師による道徳科授業用ワークシートの工夫や蓄積、評価活動が進められた。

夏季休業中の平成30年8月2日(木)、8時30分から10時20分の約2時間を通して、全教師を対象に道徳科の評価に関する校内研修を実施した。

この研修の大まかな流れは次の通りであった。

①校長あいさつ→②助言者(筆者)からの助言(事前に渡されていた評価文案をもとに評価方法について説明)→③研究協議(持ち寄り

た担任する生徒のワークシートを手掛かりにして個人で考え、学年等のグループで評価し合う。さらにそれを大型テレビに映し、全員で紹介する。)→④助言者の講評→⑤得られた気づきを手掛かりにして夏季休業明けに担任する生徒全員の評価文を作成する

担任をはじめとする教師は、この研修を手掛かりにして、前期の道徳科評価案を夏季休業明けまでに書き上げることと、前期終了時には、生徒と保護者にも明示していくという課題をもち研修した。

このため、小冊子「道徳科の試行について」を参考に学年会が作成・実施してきたワークシートの自己評価欄と、道徳担当が用意した、

夏休み前までの道徳授業を生徒が自己評価する図2のような「振り返りシート」の記述を読み解いて、学習状況も紹介し合いながら、評価文案を作成し、グループと全体の協議を重ね、助言者（筆者）からの講評も手掛かりにしながら練り上げた⁵⁾。

道徳 7月20日

3年

道徳の振り返り

※特にどの教材で、友達のことを聞いて、よいところを見つけられましたか。	教材名 ほろひれ	複数可
※特にどの教材で、「自分ならどうするか」と、一生涯考えましたか。	教材名 〇〇が努力を無駄にする、 りんごの何を愛するのかが	複数可

※ 心に残った教材とその理由を書きましょう。

教材名	理由(出来るだけ詳しく)
〇〇が努力を無駄にする。	A (変わった) A (変わらなかった) B (心に響いた) C (空席に坐かしたい)

図2 道徳科「振り返りシート」

研修に先だち推進委員会から、全教師で評価文をつくってみるという研修課題、持ちよる資料について説明があり、この研修の意図や進め方が共有されていたことで、課題解決を目指す積極的な協議が行われたと考えられる。

2.3 評価の改善を目指す道徳科研究授業による校内研修—事例：秋の道徳教育校内研修—

この研修を踏まえ夏季休業明けには、担任が生徒たちの評価文をまとめ上げた。さらに、後期からの評価と、それを踏まえた授業の改善を進める手掛かりを得るための道徳科研究授業と

協議会を平成30年9月19日（水）午後、教育委員会事務局の担当指導主事と筆者を招聘して実施した。

当日は、2年生の学級を対象にして、生徒自らの命の尊さを追求する問題解決型の授業が提案された。

研究授業後の協議会では、道徳科の評価と直結するであろう中心発問が、「生徒が多角的・多面的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問い」という意図通りに的確に行われていたか、生徒に書いてもらった自己評価用のワークシートを踏まえて議論された。

評価の視点から、中心発問が練られており、生徒の自己評価活動の具体をもとに、協議会をすすめたことにより、自校としての道徳科授業のあり方も追求できるように構成されていたと考えられる。

3. 指導計画を改善するための校内研修—事例：冬の道徳教育校内研修—

道徳科の評価を書き上げ、生徒や保護者に明らかにしたこと、これを意識しながら中心発問など授業のあり方を追求していく中で、さらに冬の校内研修が行われた。

平成30年12月21日（金）の15時から16時30分までの間、全教師を対象に、「道徳評価と年間指導計画」をテーマに研究協議と作業が進められた。

この研修の大まかな流れは次の通りであった。

- ①校長あいさつ→②道徳担当（道徳教育推進教師）から、道徳評価と年間指導計画の作成についての説明→③研究作業（グループ作業）→④助言者（筆者）の講評→⑤質疑応答

まず推進委員会の担当から、指導要録への記述もふまえて、後期の道徳科評価の改善点（評価文前半に学習活動の評価、後半にエピソード

評価をかき分けることなど)が示された。

この後、学年会としての作業内容(道徳教育の全体計画に記す各学年の重点目標案作成と、それと連動する道徳科の年間指導計画案作成)が、道徳担当から要項をもとに詳細に示された。

推進委員会が整えていた全体計画及び指導計画のフォーマットなどとともに、学年会毎のテーブル上には、今年度の道徳教育全体計画、今年度の道徳科年間指導計画、副教材、次年度からの教科書などが持ち寄られた。学年会に所属する教師数にもよるが、図3のように基本的に各教師が担当する資料を手分けして読みながら、全体計画の重点目標案の議論、年間指導計画の作成が協働的、集約的に行なわれた。



図3 学年会ごとの道徳科年間指導計画の作成

4. 授業構成を改善していくための校内研修—事例：春の道徳教育校内研修—

4.1 授業構成を意識した道徳科の指導計画(展開の概要)をつくる校内研修

平成31年3月25日(月)の午前中に、全教師による次年度の道徳科授業をつくるための校内研修が行われた。

この研修の大まかな流れは次の通りであった。

①校長あいさつ→②助言者(筆者)からの、次年度の道徳授業に向けた、「授業スタイル」

及び授業づくりについてのアドバイス→③研究作業(グループ作業)→④助言者の講評→⑤質疑応答

助言者が求められたのは、評価の工夫や指導計画の作成をふまえ、道徳科授業をどう構成し直せばよいか、他校で実践された学習指導案や板書などを示し具体的に説明することであった。

特に板書のレイアウト例を示すことで、問題解決的な道徳科授業のあり方、授業構成について関心が高まるような説明が求められた。

この筆者の説明を手掛かりにしながら、学年会ごとに集まり、進級する予定の生徒達に対して、次年度当初にどのような授業を展開するか、具体的には主題名、内容項目、教材名、ねらい、中心発問(◎)と主な発問(○)、評価のポイント(ねらいについて(◆)、指導方法について(◇)),教科等との関連性を協議しまとめ上げた。さらにそれを全体会で紹介し、対象となる学年の生徒たちにとって適切であるか、段階的になっているかどうかなど吟味した。

授業の評価をふまえつつ、これからの道徳科の授業構成に焦点をあて、進級する次学年用に、さらに学年間の段階まで意識した指導計画(展開の概要)の作成が協働的、集約的に行われた。

4.2 自校の授業づくりのあり方を再確認する校内研修

新年度となる平成31年4月4日(木)の午前中に、異動してきた同僚教師を交えて、道徳教育の校内研修が行われた。これまで研修を通して構築してきた道徳科授業のあり方と評価の進め方について説明と協議を行った。

この研修の大まかな流れは次の通りであった。

①校長あいさつ→②道徳担当(道徳教育推進教師)による、自校の道徳授業と評価の進め方についての説明→③助言者(筆者)からの

道徳科授業と評価のあり方、授業改善の視点
 →④研究協議（「授業スタイル」についての
 グループ協議と全体発表）→⑤助言者の講評
 →⑥質疑応答

道徳担当が助言者に対して、③で説明するよう求めたのは、これまで校内研修で構築してきた評価のあり方や（展開の概要を含む）指導計画をふまえ、自校の道徳科授業をどう構成し直してゆけばよいといえるのかについて、自校での評価の工夫点や、自校や他校で実践された学習指導案の工夫（特に中心発問と板書計画の構造）を紹介しながら、なるべく具体的に説明することであった。

助言者による③を受け、④のグループ協議と全体発表では、導入部でのテーマ提示、読み物資料の教師による範読、展開部の個人思考の工夫、対話活動を推し進める発問、仲間の意見を手掛かりにして自分の意見をまとめようとしている生徒の発表をさらにゆさぶる発問、終末部に教師が気づきを述べることにより閉じる可能性、生徒が生活に生かそうとする道徳科の評価をしていく大切さなどが紹介された。

このように、道徳科の授業づくりに関わる活発な協議が行われたが、直ちに道徳科「授業スタイル」として共有していける点は多くはなかった。一方で、この「授業スタイル」化以上に、道徳科としての授業構成の要点をつく議論が積極的に出され、理論研修としての意味は大きかったといえる。

異動してきたばかりの同僚を交えての研修は、参加教師の主体性、テーマについての深化・発展性、それまでの研修成果との連続性がそれぞれ保たれており、工夫された道徳科校内研修が行われたと考えられる。

ただし、評価の視点を踏まえた授業構成についての議論は少なく、作成済みの指導計画の吟味もなされていない。これらの視点を含む協議

題設定と協議時間の確保が直接的な課題として残っているであろう。

5. おわりに—道徳科の指導と評価を追求する校内研修とは—

5.1 道徳教育校内研修の成果

これまで見てきたとおり、安佐南中学校における道徳科に係る校内研修は次のような特色を持っていたと考えられる。

1点目は、前年度からすでに、今後求められる道徳科の目標と指導計画、評価の意味について理解を深め、実践への具体的な方途を明らかにしようとしていた。このために先ず推進委員会のメンバーが参考資料を収集し、校長とともに研究の基本方針としてまとめあげている。この共有化のもと、教師たちが実践を進めてゆく過程で、夏休み前に生徒の自己評価シートを改善している。これらの記録を手掛かりにして全教師が、評価文案を書き出し、相互に吟味・評価し、招聘した外部講師による理論的裏づけも得ながら、自校におけるこれからの評価方法として共有している。

道徳担当を含む推進委員会が基点となり、全教師を巻き込む校内研修を行い、自校における道徳科の具体的評価方法を協働的に開発している。

2点目は、道徳科の評価方法の協働的な開発により、教師たちの評価と授業改善に対する意欲を支えることができて、校内研修の中で、道徳科の年間カリキュラム、次年度の年間指導計画を協働的に構築している。

冬の校内研修では、学年会ごとに、評価方法を意識しながら4月以降、道徳授業を展開してきた手応えを共有し合い、次年度に進級していく生徒たちを想定して、道徳科としての年間指導計画を構築するという具体的課題を目指し語り合い、効率的に意見を集約しまとめあげることが出来ている。

具体的には、今年度の道徳教育全体計画及び「道徳の時間」年間指導計画、今年度までの「道徳の時間」副読本と、道徳科教科書等の教材、そして次年度の学校行事計画案の情報を同時に共有して、次年度の年間指導計画を書き上げられたのは、専門家として、実践者としての個々の教師の力によるとともに、課題が明確な校内研修の場が整えられ、これまで同じ学年の生徒たちに向き合い、日々の授業や指導、実践をともしている同僚としての協働性が大いに発揮できたこともあると考えられる。

3点目は、自校の道徳授業の指導と評価のあり方を意欲的に追求している。協働的な校内研修を適時的に実施することを通して、新たな道徳科の評価のあり方を研究し続け、この評価と連動している授業改善もはかろうとし、よりよい授業を求めて年間指導計画の再構築も意欲的に進められていた。

こうした道徳科の指導と評価を主体的に改善しようとする校内研修の工夫は、年度を越えても続けられ、評価の具体的な方法を共有化しながら、問題解決的な授業構成を意識した道徳科の指導を、中心発問や板書計画など実効的な方法を共有しながら構築していこうとしている。

5.2 道徳校内研修の課題

こうした道徳校内研修における特色を活かしながら、今後より効果的な道徳教育の校内研修を進めていくには、次のような課題が残されていると考えられる。

1点目は、自校で構築してきた評価のあり方や年間指導計画をもとに各教師、そして各学年会が授業を実践していく意義を全教師が共有し、他教科等でも連動したアプローチが進んでいくことが期待される。このためには、評価実践の工夫と課題を共有する校内研修、生徒のワークシートの自己評価欄や振り返りシートを中心に据えた研究授業と、生徒の評価を協議の柱に据

えた協議会、道徳科の指導と評価の実践を掲示し校内外に開いていくことなどが考えられる。

2点目は、前年度中から立てていた道徳科の年間指導計画と新年度の実践とのズレの修正が適宜進められ、教師間で共有化されていくことが期待される。いうまでもなく、計画のために実践するのではないから、道徳科の実践をよくするために計画を修正する必要性が生じれば、スムーズに教師間で共有化される必要がある。こうした時に、計画に込めてある個々の意味がよく共有化されていれば、その修正や改善への理解や協力が得られやすいはずである。当初の計画の修正や改善を提案する際には、計画当初に行われた、自校の生徒の道徳性をいかに育成しようとするかといった根本的な本質的な議論をよく理解して、教材や生徒の実態に応じた具体的実践的な修正を提案すれば理解されやすく、共有化が進みやすいと考えられる。

さらに次年度に向けては、自校の生徒の道徳性育成に係る全体計画についての議論を深めることができ、年間指導計画を評価し改善できるような、より高度化した道徳校内研修を創り上げていくことが期待される。

3点目は、各学級の生徒たちの学習を深めさせるため、そして、その手応えを各教師が得て指導を改善するためにこそ、道徳科の授業構成についての議論が行なわれ、具体的な学習指導案として、さらには展開の概要を含む年間指導計画として明らかにされていくことが期待される。この考え方に基づいて、先ずは今日、期待されている問題解決的な授業構成について、校内研修及び研究授業を展開してみれば、校内での道徳科授業づくりが深めやすくなると考えられる。校内で議論が活発に続けられることが、教師の道徳科の授業づくりへの意欲を支え、生徒にとってより意味ある学習を生み出すと考えられる。

4点目は、全国的に授業及びカリキュラムの

改善が要請され、全教師の授業実践と全ての学校のあり方がゆさぶられている中、単一の学校として、在籍している生徒たちの道徳性を育成する志向を高め、新しい道徳科授業とカリキュラムを開発している安佐南中学校の教師達の研究の基盤には、学校内の正義を保ち、個を尊重し合い、高め合おうとする力強い心構えが発信され続け、教師と生徒、そして保護者や地域との間で共有され続けていることもあることを記しておきたい⁶⁾。



(平成30年 8月 5日撮影)

6) 安佐南中学校では、年間を通して道徳教育に関わる適時的な校内掲示をしてきた。

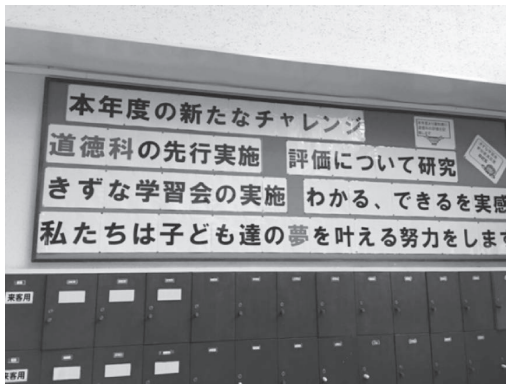
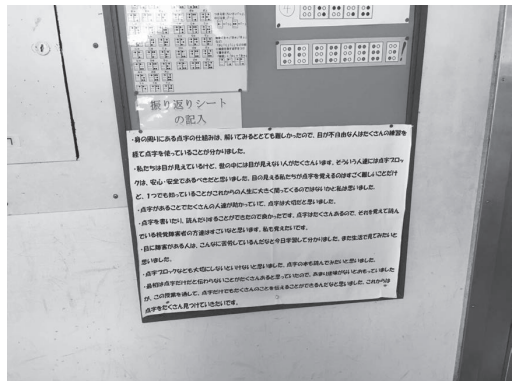


図4 正面玄関の道徳科に係る掲示 (平成30年 9月19日撮影)

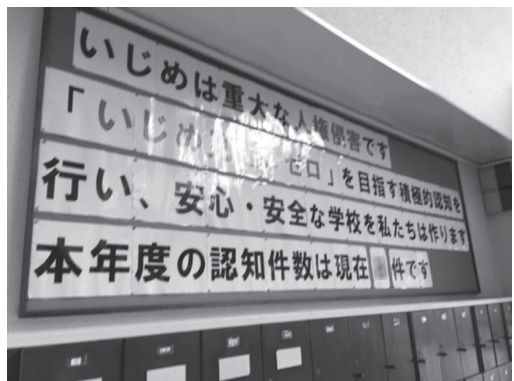
開かれた道徳教育の実践が、道徳科の指導と評価の質を高めようとする教師たちの研究を支えていると考えられる。

注

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月』教育出版, 平成30年, p. 4.
- 2) 同上, p. 110.
- 3) 同上, p. 109.
- 4) 西野真由美「道徳科の指導と評価」『中等教育資料 平成30年5月号』学事出版, 2018年.
- 5) 評価文案を小グループで練り上げ、代表の担任が教室の大型テレビ画面に示し説明している。



道徳授業後の生徒の振り返りシートの記入を校内廊下に掲示 (平成30年 8月 5日撮影)



正面玄関の道徳教育に係る掲示 (平成31年 3月25日)

参 考 文 献

- 京都市教育委員会リーフレット「特別の教科 道徳
評価について 平成30年3月 (<https://www.city.kyoto.lg.jp/>), 2019年4月22日確認済).
- 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議
「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等につ
いて(報告)」, 平成28年7月22日.
- 永田繁雄編『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育
開発研究所, 2017年.
- 日本道徳教育方法学会「日本道徳教育方法学会第25
回研究発表大会プログラム」.
- 明治図書道徳教育編集部『道徳教育 [特集] 道徳の
通知表文例集—OK & NG 文例ガイド付き 7
月号』明治図書出版社, 2018年.
- 明治図書道徳教育編集部『道徳教育 [特集] 道徳授
業開きパーフェクトガイド 4月号』明治図書
出版社, 2019年.
- 文部科学省教育課程課編『中等教育資料 平成29年
6月号 MEXT65 第973号』学事出版, 2017年.
- 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)
解説 特別の教科 道徳編』教育出版, 平成30
年.
- 横山利弘『道徳教育, 画餅からの脱却—道徳をどう
説く—』暁教育図書, 2007年.